

「菊池川の生態系を守るには」

鹿本高校

要旨

菊池川の生態系を守るために外来種を減少させたいと思った。

研究背景

菊池川には、魚類、鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類と数え切れないほど、たくさんの生物が菊池川からたくさんの恩恵をもらいながら暮らしている。しかし、外来種の影響で生態系が破壊され絶滅、絶滅の危機にひんしている在来種は、少なくはない。

「虫の外来種が日本にいるので発見したら報告してください」というチラシがあり、僕達の班は環境についてだったので自分たちにとって身近な環境について考えるものはないかと考えたときに菊池川の生物、そこに暮らしている在来種を守るためには何をすればよいだろうか考えたため、研究を開始した。

現在確認されている特定外来種はブラジルチドメグサ、オオクチバス、ブルーギル、カダヤシなど多種多様な外来種がいる。

特にブラジルチドメグサは菊池川流域で増加しており、それによって洪水を流す妨げになったり、有明海に流れ出し悪影響を及ぼすなど多方面に被害を及ぼしている。また、河川の氾濫、通水阻害、水門の管理被害などが各県で出ている。

他にもオオクチバスは肉食性で動くものは何でも捕食するため、メダカやフナ、気象淡水魚、アユなどの漁業対象種などに影響を与える。

カダヤシは攻撃性が強く、メダカの仔魚や稚魚を捕食する。また、メダカに比べ、水路のコンクリート化など環境の変化に強く、カダヤシが増えることで、メダカがいなくなってしまう水域もある。ただし、メダカと同じようなところに生息しているため、カダヤシだけを捕まえることは困難という問題点がある。



オオクチバス(引用:Wikipedia)



カダヤシ(引用:Wikipedia)

研究手法

インターネットで外来種とそれについての対策方法などを調べる。

結果・考察

研究内容は、菊池川にはどれだけの外来生物がいるのか。また、外来生物がもたらす影響を調べることで悪影響があった場合、駆除をしたりなどの対策方法を考えること。

考察は、外来生物が生態系の破壊などの悪影響を及ぼす一方でいい影響もあるのではないかと考えたので、それについても調べていきたい

今後の展望

菊池川には多くの種類の外来生物がいた。外来生物が在来生物にもたらす影響は生態系の破壊や在来種の減少などがあり、洪水などの影響も調べると分かった。だから外来生物はできる限り駆除したり捕獲したりしたほうが良いと思った。

引用文献・参考文献

◆環境 | 国土交通省 九州地方整備局 菊池川河川事務所

<http://www.qsr.mlit.go.jp/kikuti/kasenseibi/index04.html>

◆菊池川河川事務所調査課 <http://www.kikutigawa.hinokuni>



ブラジルチドメグサ(菊池川河川事務所調査課)